

## 9 歳臼歯についての検討

○木船敏郎<sup>1</sup>、小笠原貴子<sup>2</sup>、山座治義<sup>3</sup>、野中和明<sup>3</sup>

所属 1 きふね小児歯科

所属 2 九大病院小児・スペシャル歯

所属 3 九大・院・小児歯

### 【目的】

6 歳臼歯 (M1) の萌出遅延の原因として、歯胚形成の遅れがある。なかでも 9 歳頃萌出する歯は 9 歳臼歯 (nine-year molars) と称され、その形態的特徴から M1 が先天性欠如のため、12 歳臼歯 (M2) が早期に形成されたとする説が有力になっている<sup>1)</sup>。今回、9 歳臼歯の症例について検討した。

### 【方法】

きふね小児歯科ならびに九大病院小児歯科・スペシャルニーズ歯科に平成 28 年度来院患者のパノラマエックス線を検索して、9 歳臼歯のある 17 症例 30 歯 (平均年齢 7.8 歳、男性 5 名女性 12 名) について、①部位②併発症③9 歳臼歯の後方臼歯の有無を調べた。歯胚形成の進行程度から症例の Dental age (Demirjian 法)、9 歳臼歯と後方臼歯ならびに反対側の 6 歳臼歯の Tooth Age (Nolla 法) を算出した。④Dental age と暦齢の比較⑤反対側の 6 歳臼歯の Tooth Age⑥9 歳臼歯を M1, M2 とした時の Tooth Age⑦9 歳臼歯の後方臼歯を M2, M3 とした時の Tooth Age と暦齢を比較した。⑧実際に萌出した 9 歳臼歯の歯冠形態⑨M1 は通常萌出時期の M2 欠如症例の M3、を調べた。

### 【結果】

①上顎の片側のみ 7 症例、上顎両側 7 症例、上顎に下顎も伴う 3 症例。②併発

症、上顎正中過剰歯 2 症例、第二小臼歯の先欠 2 症例、上顎犬歯の先欠 1 症例、下顎中切歯の先欠 1 症例、上顎側切歯の矮小歯 2 症例、下顎第二小臼歯の歯胚形成遅延 2 症例、上顎 D 埋伏 1、下顎 E 低位乳歯 1 症例、下顎乳前歯の癒合歯 1 症例。③30 歯の 9 歳臼歯のうち 17 歯に後方大臼歯の歯胚が存在し、大臼歯歯胚が 3 個存在することは無かった。④Dental Age と暦齢に有意差無し。⑤暦齢と反対側第一大臼歯の Tooth Age にも有意差無し。⑥9 歳臼歯を M1 とすると、Tooth Age は暦齢より 2.3 歳遅れ、M2 とすると暦齢より 1.4 年歳早い。⑦9 歳臼歯の後方歯を M2 とすると、Tooth Age は暦齢より 3.2 歳遅れ、M3 とすると暦齢より 2.1 歳早い。⑧萌出した 9 歳臼歯は 3 咬頭性で、反対側の M2 と類似していた。⑨M2 が欠如した症例の M1 は通常時期に萌出し、M1 と M3 の間に大きな空隙が存在した。

### 【考察】

男女比は 1:2 で、上顎片側と上顎両側の発生が多く、下顎単独は無かった。本研究から、9 歳臼歯は M2 であることが強く示唆されたが、臼歯萌出時期の遅延化傾向との関連性についても今後、検討の必要がある。歯数異常の原因として、*SX1*、*PAX9*、*AXIN2* 等の突然変異が考えられ、優性遺伝の可能性が示唆される。

### 【文献】

- 1) Nakano K. et al. Delayed development or congenital absent of a single first permanent molar in Japanese child patients. *Int J Paediatric Dent* 1999;9:271-276